

第39回 日本眼循環学会 アフタヌーンセミナー2 (AS2)

ピンチの時の次の一手

OCT/OCTA 活用の新機軸

2023. 7.22 (sat) | 16:35-17:35 |

会議室 203B 会場, 奈良県コンベンションセンター 2F



座長
中澤 徹 先生 (東北大学)

眼循環は網膜や視神経を栄養することで、視機能や恒常性を維持するために大変重要な機能であり、その破綻は様々な病態を引き起こします。網膜疾患・緑内障臨床において、OCTの広角化や可視化性能の向上、OCT (OCTA含む)機能の充実が図られており、実臨床ではさまざまな機器を組み合わせる多角的診断が行われています。種々の症例を解釈し治療方針を決める上で判断に困るときがあると思います。本セミナーでは、そのような時の一助になるよう、3人のエキスパートの先生方に症例を提示いただきながら最新の知見を頂戴いたします。二宮先生(東北大学)には、“AIを用いたOCTAの緑内障診療への活用”、五味先生(兵庫医科大学)は、“OCT/OCTAでみる脈絡膜”、橋本先生(東邦大学)は、“Triton広角OCTアタッチメントを網膜硝子体診療に活かす!”と題してご講演いただきます。眼底の循環を測定することは、視覚障害や全身疾患の予防や治療において、非常に重要な役割を果たすことができます。多くの先生方のご参加をお待ちしております。

演者



二宮 高洋 先生
(東北大学)



五味 文 先生
(兵庫医科大学)



橋本 りゅう也 先生
(東邦大学医療センター佐倉病院)

“ AIを用いたOCTAの
緑内障診療への活用

“ OCT/OCTAでみる
脈絡膜

“ Triton広角OCT
アタッチメントを
網膜硝子体診療に活かす!